

私立大学図書館協会 2014年度西地区部会館長懇話会 要旨

日時:2014年6月13日(金)11:40~12:50

テーマ:「大学図書館に求められる学習支援について」

<Aグループ>

場所:神戸学院大学 C号館 1F 会議室

出席:31校 36名

開会の挨拶:愛知学院大学図書館情報センター 館長 白石浩之

司会:愛知学院大学図書館情報センター 館長 白石浩之

<Bグループ>

場所:神戸学院大学 C号館 1F LSCカンファレンスルーム

出席:32校 37名

司会:愛知学院大学図書館情報センター 事務長 足立 祐輔

A、B各グループともに進行役は慣例により部会長校 愛知学院大学図書館情報センターが担当。テーマ「大学図書館に求められる学習支援について考える」の趣旨に沿って、各大学の学習支援の紹介、質疑応答が行われた。

<Aグループ>

【学習支援事例】

<岡山理科大学>

新築する建物に2年後、ラーニングコモンズ設置予定のため他大学事例を研究中。

<近畿大学>

全1年生に基礎ゼミ単位で図書館ガイダンス、その後は、教員希望によりオンデマンドで情報検索ガイダンス実施。プレゼンガイダンス、1年生への教員によるレポート作成法ガイダンスを実施。

<福山大学>

広島大学図書館自動書庫オープニングセレモニーに参加。開架スペース、ラーニングコモンズ、ライティングセンターが同一フロアにあり、機能的。自館での参考に。

<武庫川女子大学>

リニューアルによる入館者増加の要因は運営面への学生参加。資料のそばにスマホコンセント・Wi-Fi設置など、サイレントゾーンとは峻別しつつも、図書館を“憩い・にぎわい・語らいの場”に。6階ラーニングコモンズは授業にも活用。

<愛知学院大学>

ラーニングコモンズ内はディスカッション可。利用目的に応じた複数のエリア設定。自販機設置。オリエンテーションを授業枠から学生自主参加型に変更。参加者増加中。

<椋山女学園大学>

ラーニングコモンズは学生の主体的学習支援が主眼だが、授業利用・図書館ガイダンス利用との配分を調整中。飲み物、携帯電話可だが、クワイエットゾーンとのバランスも良好。

【ラーニングコモンズと図書館資料、大学における図書館】

〈九州産業大学〉

ラーニングコモンズと資料とをどう結びつけているか。図書館のキャンパスに占める位置も学生に合わせて変化が必要な時期にきており、考えがあればお聞きしたい。

〈愛知大学〉

(豊橋)1階参考図書周辺が利用学生の議論の場となり、ラーニングコモンズ化したため、2階開架図書フロアをサイレントゾーンとした。ラーニングコモンズ以上に、参考図書付近のオープンな空間がゼミの予習・卒論作成に活用されている。

〈椙山女学園大学〉

会話可としたが、予想以上に静か。学生自体、静謐でない学習に慣れている。3階グループワークルーム付近に参考図書を移動し、活用されている。配架に工夫、図書と休憩ゾーンを融合し、貸出増加。身近に本を置くことが大事。

【ラーニングコモンズと授業利用】

〈近畿大学〉

ラーニングコモンズを授業利用する、しない両ケースがあるが、授業利用しない場合、ラーニングコモンズ主体のイベント等実施されていると思う。ポリシーをお聞きしたい。

〈武庫川女子大学〉

図書館外ですでにラーニングコモンズの授業を実施している教員も多いが、ラーニングコモンズは設備面で使いやすく教員の利用希望があり、各自で試行錯誤してもらっている状態。

〈愛知学院大学〉

ゼミでプロジェクトルームを使用。学生も関心を持った様子だが、常時使用は、いかがなものか。

〈愛知大学〉

(名古屋)ラーニングコモンズの要素を盛り込んだディスカッションルーム。ゼミ・自主的活動多数。国際交流センター、キャリア支援課と連携したイベント開催で、利用者でなかった学生も来館。学生サポーターによる映画鑑賞会などの企画も実施。

〈立命館アジア太平洋大学〉

ラーニングコモンズ設置。飲食・会話可、スマホ用コンセント、タブレット貸出、Wi-Fi環境あり。授業利用しないが、初年次必修ワークショップ科目で教員がラーニングコモンズ活用を周知、稼働率は高い。新スペースを検討中だが、館外の場合、学生と図書館資料が結びつかない。

【ライティング指導、学習支援】

〈中京大学〉

課題など教員の協力は大きい。ライティング指導導入につきご意見を聞きたい。

〈阪南大学図書館〉

塾講師を招き、初年次学生に学力別少人数クラス編成で指導、自主学習がみられる。図書館内に設置された学習支援室、学生相談室と連携し改善を図っている。

〈大手前大学・大手前短期大学〉

開架書架を囲むガラス張りの小部屋に学習支援センター・教職支援センター・資格サポートセンター。相互に可視化され、図書館全体がラーニングコモンズ的。1・2年生必修科目レポート作成過程で学習支援センター指導を受ける。建築コンセプトに左右されるので、既存建物の場合、空間・人の配置に工夫が必要。

【図書館外(設置・管理)ラーニングコモンズ】

〈京都産業大学〉

教育研究支援開発センター管轄のラーニングコモンズ。図書館内設置も検討された経緯から、図書館ホールをラーニングコモンズパイロットケースとして運用。大学・学生の関心は、新ラーニングコモンズに移ったが、図書館は「知識の宝庫」である点を活かし、活性化できれば。学習支援として、書評大賞・ブックツイート大賞・文章力アップ実践講座。初年次ゼミ内で館員による図書館利用教育、初年次以外ゼミで文献探索ガイダンス。留学生支援では、日本映画英語字幕鑑賞会を実施。

〈Bグループ〉

自己紹介とともに各館の取り組みなどを簡潔に紹介。

「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」として文部科学省ホームページに掲載されている立命館大学の[ぴあら]を具体例として、学習支援について意見交換を行った。

【環境整備面】

〈立命館大学〉

[ぴあら]は学内3か所で展開。何れも活発に利用されている。既存の図書館内に設置したため、利用希望者数に対して施設が狭隘であるが、アクティブラーニングという観点からは図書館内に存在していることが重要である。

〈関西大学〉

図書館外にコモンズ施設が存在している。図書館内にもあるべき、また、学部内にもコモンズ施設があることが望ましい。

質問等

Q. ラーニング施設内の話し声や音の影響について対策と仕切りかたについて〈愛知淑徳大学〉

A. ラーニング施設既設館からは何れも防音ガラスを用いるなど、防音対策を行っている旨、説明があった。またグループ学習する姿が見えお互いに学習意欲が湧くよう仕切りは透明であることが良い。

【支援内容】

〈立命館大学〉

理系学部においては、理数科目支援を目的とした授業連携を、文系においては、初年次教育科目と連動したライティングサポートを[ぴあら]で行っている。

〈愛知東邦大学〉

小規模大学における基礎学力向上の取り組み例。文部科学省採択(GP)でアクティブラーニングを通じた就業力育成支援事業を行っている。図書館、学修支援センター、情報システムセンターの3施設を一体にした取り組みを進める。

〈大阪工業大学〉

PBL(Project Based Learning)への取り組み。課題解決型学習による授業成果物の図書館への展示など、図書館の利用、来館促進。教育支援とは、モノではなくヒトである。

〈福岡大学〉

学習支援、アクティブラーニング、ラーニングコモンズという言葉が独り歩きしている。学生がグループで学習できる場所があれば、図書館である必要はない。大学図書館の在り方としては、学習支援という言葉で煽りすぎとも思われる。図書館側で学生の来館きっかけとなるような働きかけをしたとしてもそれだけでは不十分、やはり、教員側が、図書館の資料を利用しなければならない課題を課すなどの必要がある。

A・Bグループとも、各館における取り組み事例が情報交換される中で、ラーニングコモンズ・学習支援の在り方に留まらず、図書館の大学における役割についても考えさせられる有意義な館長懇話会となった。